館山

ミジビエレザー、の工房開業

大阪谷さんが多彩な革製品

捕獲された有害獣の新たな活用手段として、革製品にする取り組みが始まっている。館山市の銀座通り沿いの複合施設に工房「伝右衛門製革」が開業。店主の大阪谷未久さん（32）は「ミジビエレザー、の普及が地域にとっての利益になれば」と意気込む。

有害獣の皮を有効活用
「獣害の地域課題伝えたい」

店主の大阪谷さん＝館山

大阪谷さんは、大阪府出身。大学生のころサークル活動で、南房総市内で田植えや稲刈りといった農作業を体験し、農家がイノシシなどによる農作物の被害に悩まされていることを目の当たりした。

「農家にとって、田畑を守るため獣害対策は必要。だけど、捕獲されたイノシシの処理は、高齢化する農家には大きな負担になっているようだった」と振り返る。

「里山を整備することで人と野生動物がうまく共存できる環境をつくることはできないか」と思いを強め、農業についての情報収集を兼ねて、大学卒業後は東京都内の農業系の出版社に勤務。その後、2021年に館山ジビエセンターを運営する合同会社アルコへの就職をきっかけに南房総市に移住した。

地域でジビエとして食肉利用が進む中、「獣皮はほとんどが廃棄されている。人間の都合で駆除された命を無駄にはしたくない。革製品としての有効活用は、農家の支援につながるのでは」と害獣の皮を革製品にすることに着目した。

同社で主に骨や皮などの残渣（さ）の利活用の業務に取り組むのと並行し、革職人として技術を身に付けるため、都内の革製品を製作する会社に出向し、革製品づくりに励みながら腕を磨いた。

23年夏にアルコを退職して、準備期間を経て工房を開業。「革製品を通して、獣害といった地域課題の現状を伝えていき、多くの人に関心を持ってもらいたい」と熱意を見せる。

大阪谷さんが手掛ける革製品には、地域で捕獲されたイノシシの皮や県内で急激な繁殖が問題となっている特定外来生物・キョンの皮が使われている。

スマホケースや名刺入れ、財布など製品はさまざま。柔らかく、手触り良く、吸水性もあるキョン革の特徴を生かした、運転用やゴルフのグローブ、ブックカバーなども取りそろえる。

「ジビエレザーは野生動物の生きた証を感じることができ、争いなどで傷ついた部分はそのまま模様になることも魅力の一つ」と語る。

工房では、革製品を販売するだけでなく、加工に使う機材の貸し出しなどもして、ものづくりの楽しさを広めたいと考える。定期的にワークショップも展開し、獣害という地域課題を伝えるとともに、ジビエレザーの魅力を広めたいと思いを描く。

「ジビエレザーが広まることで、農家や猟師の支援になる。獣害被害がなくなり革製品をつくらなくていい状態になるのが願いで、レザー工房として役目を終えたここを、里山素材を活用したものづくりの拠点にしていくことが夢」と大阪谷さんの思いは果てしない。

工房内に並ぶレザー商品＝同

キョン革を使った商品も＝同

写真で見る 鏡ケ浦 出船 入り船

航海練習船「大島丸」

大島海洋国際高校の航海練習船「大島丸」を24日、館山湾ウオッチャーの高橋聰さんが撮影した＝写真＝。

読

ごみ管
悩みを

東京か
年。南房
す。山根
山市）
ナー「
惑 大き
（2月20
ました。
地元の役
受け持っ
域の役」

県立学校の教職員人事異動

【教諭】〈転入〉
太田翼（長狭高）
水上理凱（木更津東高）
堀江均
竹平和（槇の実特別支援学校）
君津特別支本七海